

## 第2部 おやべ型体験メニューによるまちづくりの提案

### はじめに

はじめに

### 1 「田んぼアート」の研究

- 1-1. 「田んぼアート」とは・・・
- 1-2. 「田んぼアート」に取り組む他市町村の事例
- 1-3. 「田んぼアート」に用いる古代米等の品種

### 2 「田んぼアート」に取り組む農業経営体への聞き取り

### 3 クロスランドタワーを中心とした候補地の検討

### 4 候補地で経営する集落営農組織へのアンケート調査の実施及び結果

- 4-1. 「田んぼアート」に関するアンケート
- 4-2. 「田んぼアート」に関するアンケート(結果)

### まとめ

まとめ

定住人口を増加させるには、どのような方策が有効か。

「定住促進」について様々な意見を交わすうちに、私たちは、「まずは、多くの人々に小矢部の魅力を知ってもらう必要がある。そのためにも、交流人口を増加させる取組が必要ではないか。」と考えるに至った。

## 見て来て体験 メルヘンおやべ

これは小矢部市のキャッチフレーズである。

このキャッチフレーズが表すとおり、現地で「観たもの」や「訪れた事実」は人々の印象に強く残る！さらに現地で「体験したこと」は、これら以上に人々の記憶に強く残る！との考えから、私たちは、小矢部の魅力がストレートに伝わるような「体験メニュー」を考案することとした。

「体験メニュー」の考案にあたり、目新しいものを次々と提案することも考えたのだが、小矢部の魅力を前面に打ち出すためには、既にある小矢部独自の資源、あるいは小矢部独特の資産に「体験メニュー」を“プラス”していくことで、小矢部ならではの、まさに“オンリーワン”のまちづくりにつながっていくのではないかと、この結論に達した。

このような考え方に基づき、私たちは、

- ① クロスランドタワー “プラス(+)” 田んぼアート体験
- ② 旧岩尾滝小学校 “プラス(+)” 芸術・スポーツ合宿体験
- ③ 田舎暮らし(空き家活用) “プラス(+)” 三大祭りの参加体験
- ④ 田舎暮らし(空き家活用) “プラス(+)” 農作物・果物等の収穫体験(市民農園)

の4つの組み合わせを、実現可能性の高い「体験メニュー」として中間発表の際に提案した。

そして中間発表後、田舎暮らしやスローフードなど農業や農のある暮らしが注目を集めている現状を踏まえ、私たちは、「クロスランドタワー + 田んぼアート体験」に的を絞って、重点的に検討を進めていくこととした。

## 1 「田んぼアート」の研究

### 1-1. 「田んぼアート」とは…

「田んぼアート・総合ホームページ(<http://www.nobi.or.jp/tanbo/>)」では、「田んぼアート」について、次のとおり記載されている。

1990年代の前半(平成5年頃)から異なる稲の品種を使って田んぼに絵柄を描く、いわゆる「田んぼアート」が始まりました。田んぼで米を作る単なる実用向きではなく、古代米の紫、黄、緑、赤などの色とりどりの葉や穂を使って絵や字を描いて、それを見て楽しむのが「田んぼアート」です。最近では判明しただけでも日本全国で135ヶ所になっていますが、まだあるかもしれません。韓国でも実施されているという情報もあります。

「田んぼアート」という名称も当初からあったものではなく、青森県田舎館村で2003年(平成15年)にダ・ヴィンチの「モナリザ」を描いた頃から語られ出したと言われています。他にも「田んぼのお絵かき」、「田宴アート」、「水田アート」など各地で名称は様々です。

### 1-2. 「田んぼアート」に取り組む各市町村の事例

現在、「田んぼアート」は全国各地で取り組まれているが、代表的なものは次のとおりである。

市町村名	実施者	絵柄	遠近法	使用米(古代米)	展望場所
青森県 田舎館村	田舎館村むらおこし推進協議会(*1)	弁慶と牛若丸 (2010年)	有	つがるロマン、紫稲、黄稲、白系稲、赤系稲の5種類	村役場の展望台
山形県 米沢市	田んぼアート米づくり体験事業推進協議会(*2)	花の慶次 (2010年)	有	はえぬき(緑)と古代米(紫、黄)の3種類	高台の展望台
埼玉県 行田市	田んぼアート米づくり体験事業推進協議会	のぼうの城 (2010年)	有	彩のかがやき、白いかげやき、濃紫の3種類	古代蓮会館タワー展望室
富山県 砺波市	たんぼにおえかき実行委員会	ケロロ軍曹 (2008年)	無	普通の稲と黄稲、紫稲の3種類	

(\*1)「田舎館村むらおこし推進協議会」は、田舎館村や商工会議所、農協、その他各種団体、自主的組織(コミュニティ組織)からなる。

(\*2)「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」は、小野川温泉観光協議会や(社)米沢観光物産協会、米沢市観光キャンペーン推進協議会、山形おきたま農業協同組合、山形おきたま農業協同組合青年部、三沢コミュニティセンター、ルシオーレ小野川、市立三沢東部小学校、山形県置賜総合支庁産業経済部農業技術普及課、米沢市・米沢市教育委員会からなる。

※ 上記のように、市町村や商工会、観光・教育・農業などの様々な分野の団体が関わっている。

青森県田舎館村(人口:8,153人(平成22年国勢調査))では、約1.5ヘクタールの水田をキャンパスに見立て、1993年(平成5年)から「田んぼアート」が実施されている。

「田んぼアート」は、無料開放されている村役場の展望台から眺めることができる。2009年(平成21年)には、田植えから刈り取りまでの間に約17万人が見学に訪れるなど、多くの観光客を呼び込むことに成功している。

また、(財)地域活性化センター主催の第15回ふるさとイベント大賞(平成22年度)において、同村の「田んぼアート・稲作体験ツアー」が最高賞の大賞(総務大臣表彰)を受賞している。

描写の美しさやメッセージ性などによって集客の効果は変わるものと考えられるが、それでも「田んぼアート」が観光客を誘致し、交流人口の増加につながっていることを証明している。

### 【ふるさと写真館】◎田んぼアートが見頃＝青森県田舎館村

青森県田舎館村で、色の違った稲を組み合わせる「田んぼアート」が見頃を迎えている。19回目となる今回の題材は「竹取物語」。かぐや姫が月に帰る姿と、それを見送る老夫婦を7色の稲で表現した。東日本大震災の被災地を激励する「がんばろう日本!!」のメッセージも描かれた。



村役場の展望室は毎日、夕方5時まで無料で開放されており、刈り取り直前の10月1日まで田んぼアートを鑑賞できる。産業課によると、8月8日時点での観光客は約6万7400人で、昨年を約6200人上回っている。(了)

写真：見頃を迎えた「田んぼアート」＝10日午後、青森県田舎館村(富田雄二撮影)

【2011年8月18日 時事通信】

### 1-3. 「田んぼアート」に用いる古代米等の品種

「田んぼアート」を制作するには、色の異なる複数の稲の組み合わせにより、色の濃淡を調整しながら絵柄を表現する必要がある。

特定非営利活動法人TINAが運営する「古代米種籾販売のSEEDRICEホームページ(<http://www.seedrice.net/>)」では、「田んぼアート」に用いる数多くの古代米や特殊米の種籾(籾種)が紹介されている。

## 黒米

主に食用の黒米。ヌカが黒いものを黒米と分類しています。

「ヌカが黒い＝籾色が黒い」ではありません。籾色が黒いものは、特殊稲の一覧に表示しています。

ヌカ	種類	籾色	生育	背丈	分結	ノゲ	古代米の名前
濃黒	もち	薄黒	晩生	並	多	なし	シコクエン (紫黒苑)
濃黒	もち	黒	やや晩生	短	少	なし	クロダエン (黒田苑)
濃黒	うるち	薄薄黒	晩生	長	やや少	なし	インディカ長粒種 うるち米
濃黒	もち	薄薄黒	晩生	長	やや少	なし	インディカ長粒種 もち米
濃黒	もち	通常色	早生	並	並	なし	ジャポニカ種早生 もち米

## 赤米

主に食用の赤米。ヌカが赤いものを赤米と分類しています。

「ヌカが赤い＝籾色が赤い」ではありません。赤米の籾色は種類によって様々ですが、籾色が赤くなるものは、特殊稲の一覧に表示しています。

ヌカ	種類	籾色	生育	背丈	分結	ノゲ	古代米の名前
やや薄赤	うるち	やや白	早生	並	多	長	ベニアカネ
濃赤	うるち	やや黒	晩生	短	多	短 (黒色)	ベニスザク (紅朱雀)
薄赤	もち	やや黒	晩生	長	少	長 (赤色)	ベニキッコウ (紅吉兆)
薄赤	もち	普通	早生	並	やや多	短	中之島赤米 (ナカノシマアカマイ)

## 緑米

緑米は食用のほか、観賞用、藁細工用(ワラ細工用)、風味増加用などの用途があります。

ヌカ	種類	籾色	生育	背丈	分結	ノゲ	古代米の名前
緑	もち	黒	晩生	長	多	なし	ミドリマンヨウ (緑万葉)
薄緑	もち	黒	早生	長	多	なし	アクネモチ系統 緑米
緑	うるち	普通	早生	超長	多	短黒	緑かおり米

## 田んぼアート等特殊米

話題の田んぼアート用の古代米・古代稲です。

ヌカ	種類	籾色	生育	背丈	分結	ノゲ	古代米の名前
特殊 (アート)	もち	黒	早生	並	少	なし	黒穂★早稲 (田んぼアート用)
特殊 (アート)	もち	黒	晩生	高	多	なし	黒穂★晩生もち (田んぼアート用)
特殊 (アート)	うるち	黒	晩生	低	多	あり (黒)	黒穂★晩生うるち (田んぼアート用)
特殊 (アート)	もち	赤	早生	並	少	なし	赤穂★早稲 (田んぼアート用)
特殊 (アート)	もち	赤	晩生	高	多	あり (赤)	赤穂★晩生 (田んぼアート用)
特殊 (白)	うるち	黄	晩生	50cm	少	なし	黄色大黒 (観賞稲)
特殊 (白)	うるち	黒	早生	50cm	少	なし	笹稲 (観賞稲)

※分結・・・茎が分かれること。

※ノゲ・・・ノギ(芒)。稲などの穀物の実の先端にある針状の突起のこと。

また、「富山県ホームページ(<http://www.pref.toyama.jp/>)」では、富山県育成の水稻新品種として、「黒むすび」と「赤むすび」が紹介されている。

<p>「黒むすび」 (富山黒75号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリを基に玄米色を黒くした品種</li> <li>・黒米の色素は、抗酸化性に優れるアントシアニン</li> <li>・ご飯に粘りと光沢があり、食味がよい。</li> <li>・23年度からの本格的な栽培に向けて種子を確保</li> </ul>
<p>「赤むすび」 (富山赤71号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コシヒカリを基に、玄米色を赤くした品種</li> <li>・赤米の色素は、抗酸化性に優れるタンニン</li> <li>・血液をサラサラにする効果があるとされるポリフェノールのひとつであるタンニン系色素を多く含んでいる。</li> <li>・24年度からの本格的な栽培に向けて種子を確保</li> </ul>



富山黒75号                      コシヒカリ  
写真1 玄米色の比較

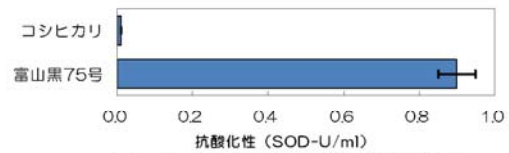


図 米ぬか層の抗酸化性測定結果



写真2 圃場での識別性(黄熟期)



左から コシヒカリ、赤むすび、黒むすび

【富山県ホームページ】

なお、「黒むすび」と「赤むすび」が発表された後、全国から栽培希望や購入希望などの問合せが多く寄せられているが、当面は、特徴ある富山オリジナルの品種として県内のみで作付を推進する予定とされている。

「赤むすび」は不明であるが、「黒むすび」は圃場での識別性(黄熟期)が比較的高いと思われ、いずれは「田んぼアート」にも使用されるかもしれないと考えられる。

## 2 「田んぼアート」に取り組む農業経営体への聞き取り

事例研究の一環として、2008年(平成20年)から「田んぼアート」に取り組んでいる(有)カンダファームを訪ね、代表の住永秀人さんから話を伺った。

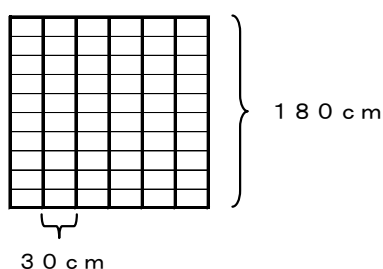
(有)カンダファームは、1992年(平成4年)4月に法人となった集落営農組織であり、主に東蟹谷地区(平桜地区・小森谷地区)の水田、おおむね70ヘクタールにおいて、水稻や大麦、野菜等を生産する大規模経営体である。経営する水田の中には、標高30m~80m、勾配1/100以上といった緩傾斜で、かつ、10アール未満の狭小な水田が存在するなど、作業効率面ではマイナス要素も多い地域での農業経営となっている。

(有)カンダファームでは、2005年(平成17年)から減農薬・減化学肥料栽培米を生産しており、減農薬・減化学肥料栽培米はJAへの出荷のほか、当社が運営する直売所において販売されている。

(有)カンダファームでは、経営する水田の一部(約30アール)において「田んぼアート」に取り組んでいるが、その作業工程は、次のとおりである。

### ①デザイン画の作成

・Microsoft Excelを用いて、「田んぼアート」を実施する田んぼの形状図に、横30cm、縦180cm相当のマスを書き込み、それに手書き等で描画し、デザイン画を作成する。



(※ 田植機の植付条間と株間を参考にマスを書き込む。)

(※ 濃緑色の部分に古代米を移植する。)



【2011年のデザイン画】

### ②代かき

・通常の稲作と同様に、トラクターを用いて代かき作業を行う。

### ③播種及び育苗

・通常の稲作と同様に、播種機を用いて播種作業を行う。

・通常の稲作と同様に、育苗施設とビニールハウスにおいて育苗作業を行う。

#### ④田植え

- ・通常の稲作と同様に、田植機を用いて全面にコシヒカリの苗を移植する。
- ・10日～2週間後、デザイン画をもとに、「杭」と「ロープ」を用いて田んぼに絵を描く。(所要日数:約1日)
- ・絵の部分(デザイン画の濃緑色部分)のコシヒカリの苗を手作業で抜き取る。(所要日数:約3日)
- ・コシヒカリの苗を抜き取った部分に、古代米の苗を手作業で移植する。(所要日数:約3日)

#### ⑤刈り取り(収穫)

- ・コシヒカリと古代米の境目の部分を手作業で刈り取る。(所要日数:約1日)
- ・コシヒカリはコンバインで刈り取る。(所要日数:約1日)
- ・古代米のみ手作業で刈り取る。(所要日数:約1日)

#### ⑥乾燥

- ・古代米の乾燥は、ビニールシートの上で天日干しを行う。



【2011年9月17日 富山新聞】

- ・遠近法なし
- ・コシヒカリと古代米(緑米)の2種類
- ・約34アール



(有)カンダファームの住永さんからは、「田んぼアート、それ自体は難しいものではないが、やはりやる気がないと継続はできないし、通常の作業と比べると面倒な作業も多い」といった苦労話や「てんたかく(早生品種)を作付けた場合には8月下旬に刈り取りとなるし、コシヒカリ(中生品種)の場合には9月中下旬に刈り取りとなる。品種の組み合わせによっては、「田んぼアート」の見頃を分けたり、長い期間楽しむことができるかもしれない」といった話を伺うこともできた。

次の写真は、これまで(有)カンダファームが制作してきた「田んぼアート」作品である。



【写真提供:(有)カンダファーム】



【写真左上】2008年

- ・遠近法なし
- ・コシヒカリと古代米(緑米)の2種類
- ・約29アール

【写真右上】2009年

- ・遠近法なし
- ・コシヒカリと古代米(緑米)の2種類
- ・約34アール

【写真左下】2010年

- ・遠近法なし
- ・てんたかくと古代米(緑米)の2種類
- ・約37アール

### 3 クロスランドタワーを中心とした候補地の検討

「田んぼアート」と組み合わせる対象として、既にある小矢部独自の資源・小矢部独特の資産という条件で意見を出し合った結果、クロスランドタワーが最適との結論に至った。

クロスランドタワーは、1994年(平成6年)に建設された高さ118メートルのタワーであり、クロスランドおやべのランドマークとして、また小矢部市のシンボリックな施設として知られている。

一方で、小矢部市は、砺波平野の一角を占める水稲単作の穀倉地帯であり、これはクロスランドタワーが所在する小矢部市松沢地区においても同様である。松沢地区は、一区画30アール未満の圃場が約30パーセントを占めていると言われていたが、クロスランドタワーの周辺は、比較的区画化されたある程度の広さのある水田が存在している。

これまでの他市町村の事例研究や(有)カンダファームへの聞き取りを通じて、「田んぼアート」を実施するための要件として、①ある程度の水田の規模、そして②田植え時期と刈り取り時期における相当程度の労働力といった点が必要であると考えられたことから、私たちは、クロスランドタワーの周辺で営農している集落営農組織(5組織)に対して、「田んぼアート」に関するアンケート調査を実施することとした。



【写真】 クロスランドタワー



【位置図】 クロスランドタワーを中心として、タワー展望台から見える範囲を赤丸で囲んだもの

## 4 候補地で経営する集落営農組織へのアンケート調査の実施及び結果

### 4-1. 「田んぼアート」に関するアンケート

候補地で経営する集落営農組織の代表者に次の文書を郵送し、アンケート調査を実施した。

#### “田んぼアート”に関するアンケートについて

「小矢部市まちづくり研究会」は、新しいまちづくりの方策等について、“市民”と“市職員”とが協働して研究するためのグループです。

私たち、「小矢部市まちづくり研究会（第2班）」では“**プラス1でオンリー1のまちづくり**”をテーマに、小矢部市特有の施設や資源に、**プラス“-工夫”**することで、新たなまちの賑わいが創出できないか、その可能性を研究しています。

その1つとして、近隣自治体になく、特色ある施設である“クロスランドタワー”の周辺に“田んぼアート”を描くことで、観光客や交流人口の増加が見込めるのではないかと研究を進めています。

ここに、研究の参考とするためアンケートをお送りしますので、是非ともご理解のうえ、公私ともお忙しいこととは存じますが、ご回答いただきますようよろしくお願いいたします。

※ ご回答は1月6日（金）までいただけると幸いです。同封の返信用封筒をご利用ください。

小矢部市まちづくり研究会（第2班） 班長 小田 友加里

★ アンケートにご回答いただきます前に、あらかじめ、次の点についてご確認ください。

#### (1) “田んぼアート”のメリットやデメリットは？

【メリット】

- ・“田んぼアート”を見るため、クロスランドタワー展望台に昇る方が増加するなど、観光客や交流人口の増加が見込まれます。
- ・集落の方のみならず、都市住民等にも参加を呼びかけて実施することで、小矢部市の認知度のアップなどが期待できます。

【デメリット】

- ・コシヒカリ等と古代米等で絵を描くため、刈取や出荷の際には、区分する必要があります。
- ・コシヒカリ等と古代米等で絵を描くため、古代米等を作付けした分、コシヒカリ等の収量が減少することとなります。
- ・通常の田植えと比べ、絵や文字の部分に古代米を作付けする分、手間や作業時間がかかります。

#### (2) “田んぼアート”の規模は？

- ・クロスランドタワー展望台から、眼下に広がる田園風景を眺め、そこに浮かび上がる“田んぼアート”を見る場合には、30a～60a程度の規模（広さ）が必要だと考えています。
- （※ 複数のほ場がつながっていても可能だと思っています。）

お問い合わせ 市役所市民協働課 67-1760（内線 733）

## “田んぼアート”に関するアンケート

組合名 \_\_\_\_\_

★ いずれかを○で囲んでください

Q1：“田んぼアート”をご存知でしたか？

- (1.以前から知っていた 2.知らなかった)

Q2：これまで、田んぼが絵画のキャンパスになると思ったことはありましたか？

- (1.以前から思っていた 2.なかった)

Q3：田んぼに描く「絵」や「文字」によっては、市や地域のイメージアップ、農産物のイメージアップにつながる場合があると思いますか？

- (1.そう思う 2.思わない 3.わからない)

Q4：“田んぼアート”に取り組むことにより、観光客が増えたり、新たな活気が生まれると思いますか？

- (1.そう思う 2.思わない 3.わからない)

Q5：現時点で“田んぼアート”に興味はありますか？

- (1.興味がある 2.興味がない 3.わからない)

Q6：“田んぼアート”に是非とも取り組みたいという方（団体等）から申し出があった場合には、協力したいと思いますか？

- (1.できるだけ協力したい 2.内容によっては協力したい 3.協力できない  
4.わからない)

Q7：“田んぼアート”に取り組む際に、不安を感じる点は何ですか？（複数回答可）

- (1.通常より人手がかかること 2.「絵」などのデザイン作成 3.収量の減少  
4.その他( ) 5.特に感じない)

(Q7で1が不安であると回答した場合のみ)

Q8：一つのイベントとして実施することで、人手不足を補うことができるかもしれません。その場合、Q7で感じた不安は解消されますか？

- (1.解消される 2.解消されない)

(Q7で2が不安であると回答した場合のみ)

Q9：「絵」や「文字」の選定については、広く公募することでデザインの作成などが容易になるかもしれません。その場合、Q7で感じた不安は解消されますか？

- (1.解消される 2.解消されない)

Q10：“田んぼアート”に取り組む際に、最も不安を感じる点をご自由にご記入ください。

Q11：改めてお尋ねしますが、“田んぼアート”に興味はありますか？

- (1.興味がある 2.興味はない 3.わからない)

Q12：ご意見等ございましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

#### 4-2. 「田んぼアート」に関するアンケート(結果)

集落営農組織(5組織)の代表者から回答のあったアンケートの集計結果は、次のとおりである。

##### 【集計表】

<b>Q1:「田んぼアート」をご存知でしたか？</b> (1.以前から知っていた 2.知らなかった)			
1.以前から知っていた (5組織/5組織)			
<b>Q2:これまで、田んぼが絵画のキャンバスになると思ったことはありましたか？</b> (1.以前から思っていた 2.なかった)			
1.以前から思っていた (4組織/5組織)		2.なかった (1組織/5組織)	
<b>Q3:田んぼに描く「絵」や「文字」によっては、市や地域あるいは農産物のイメージアップにつながる場合があると思いますか？</b> (1.そう思う 2.思わない 3.わからない)			
1.そう思う (3組織/5組織)		3.わからない (2組織/5組織)	
<b>Q4:「田んぼアート」に取り組むことにより、観光客が増えたり、新たな活気が生まれると思いますか？</b> (1.そう思う 2.思わない 3.わからない)			
1.そう思う (2組織/5組織)		3.わからない (3組織/5組織)	
<b>Q5:現時点で「田んぼアート」に興味はありますか？</b> (1.興味がある 2.興味がない 3.わからない)			
1.興味がある (2組織/5組織)		2.興味がない (2組織/5組織)	
3.わからない (1組織/5組織)			
<b>Q6:「田んぼアート」に是非とも取り組みたいという方(団体等)から申し出があった場合には、協力したいと思いますか？</b> (1.できるだけ協力したい 2.内容によっては協力したい 3.協力できない 4.わからない)			
2.内容によっては協力したい (4組織/5組織)			無回答 (1組織/5組織)
<b>Q7:「田んぼアート」に取り組む際に、不安に感じる点は何ですか？(複数回答可)</b> (1.通常より人手がかかること 2.デザイン作成 3.収量の減少 4.その他 5.特に感じない)			
1.通常より人手がかかること (3組織/5組織)		3.収量の減少 (2組織/5組織)	4.その他 (2組織/5組織)
無回答 (1組織)			
(4.その他の内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・組合員や自治会の賛同が得られるか不安である。</li> <li>・作業の煩雑さや始末が不安である。</li> </ul>			

(Q7で不安であると回答した場合のみ)

Q8:一つのイベントとして実施することで、人手不足を補うことができるかもしれません。

その場合、Q7で感じた不安は解消されますか？

(1.解消される 2.解消されない)

2.解消されない (3組織/4組織)	無回答 (1組織/4組織)
-----------------------	------------------

(Q7で不安であると回答した場合のみ)

Q9:「絵」や「文字」の選定については、広く公募することでデザインの作成などが容易になるかもしれません。

その場合、Q7で感じた不安は解消されますか？

(1.解消される 2.解消されない)

2.解消されない (1組織/4組織)	無回答 (3組織/4組織)
-----------------------	------------------

Q10:“田んぼアート”に取り組む際に、最も不安に感じる点をご自由にご記入ください。

- ・タワー展望台から見ると、30～60a程度の規模では迫力ある絵にはならない。もっと広さが必要ではないか。
- ・田んぼアートに取り組んだ場合に市から助成があるのか。
- ・作付けなど人手と時間が必要。
- ・当事者としてメリットがないのではないか。
- ・刈り取りを考えると、ほとんど手作業である。
- ・機械での作業が一部制限される。
- ・古代米等を作付するため、栽培技術(肥料・農薬など)が不安である。
- ・水稲作の場合、異品種が混在すると米の品質が規格外になってしまう。特に、有色米は次年作の遺漏現象につながるのでは好ましくない。
- ・砺波平野は、全国的にも有名な散居村集落であり、この景観を人工物で自然を壊すことになる。タワーから見る水田風景の夕暮れは最高であり、あまり人工物の導入は好ましくない。

Q11:改めてお尋ねしますが、“田んぼアート”に興味はありますか？

(1.興味がある 2.興味がない 3.わからない)

1.興味がある (2組織/5組織)	2.興味がない (1組織/5組織)	3.わからない (2組織/5組織)
----------------------	----------------------	----------------------

Q12:ご意見等ございましたら、ご自由にご記入ください。

- ・クロスランド周辺として考えた場合、転作田を利用して景観作物を植えてはどうか。
- ・大豆の作付け前にレンゲや菜の花、麦跡にコスモスなどを植え付ければ、環境美化にも役立つのではないか。
- ・稲葉山の牧草地に、一本の桜を植えてはどうか。「小岩井の一本桜」のような風景を。
- ・夏休みを中心にしたアートに重きをおいた場合、大麦の跡作を活用したほうがよいのではないか。水稲、ひまわり、コスモスなどの植栽が可能である。農家側のメリットが大きく、デメリットは小さいと思う。
- ・田んぼアートは、作付けの立毛中のみの景観であり、冬期間における景観形成(LEDなど)も重要である。すなわち、田園空間の景観は、シーズンを通して形成されるような工夫が必要である。
- ・稲葉山の風力発電等の施設も景観形成の材料になる。
- ・全国レベルのライブを企画し、若者を集めることもよい。田んぼアートのみではインパクトが小さい。
- ・「メルヘンの町」がだんだんと薄れていく気がする。国際交流事業として、イタリア文化や食材を活用したイベントも興味がある。
- ・現時点で国の低コスト資金等を活用させてもらっているので、当集落の意見集約等でいろいろ問題が生じるのではないかと不安である。

## まとめ

近年の小矢部市は、人口の減少に歯止めがかからず、そのため「まちづくり」や「まちの賑わいづくり」といえば、必ずと言っていいほど「定住促進」がキーワードとして挙げられている。

「定住促進」とは言葉は簡単であるが、市外に住む人々の生活拠点を移動させるというものであり、単発・単独の施策ではなかなか結果が出にくい現実がある。また、「定住促進」に関連した施策を継続的に取り組んできたにもかかわらず、人口の減少が続いている現状から、つい新しいものに飛びつき、長続きしないものも少なくないように感じられる。

このような状況を踏まえ、私たちは、既にある小矢部ならではの資源や資産に光を当て、有効に活用することに重きを置いて、“プラス”する「体験メニュー」を検討してきたわけであるが、これはまさに高付加価値化を進める取組(素材として「良いもの」や「優れているもの」に、さらに新たな価値を“プラス”する取組)であったと思っている。

ところが、私たちが「体験メニュー」の一つとして検討を進めてきた「田んぼアート」は、予想以上に手間がかかるうえ、それなりの運営費が必要であることが分かってきた。加えて、アンケートの回答にもあったとおり、同一の圃場に多品種の稲を作付する「田んぼアート」は、出荷時に他品種の米が混入してしまうおそれや不安が残るということもまた分かってきた。しかしながら、新たな取組に付随する課題や手間が多ければ多いほど大勢の市民の関与が必要になるだろうし、こうした課題を乗り越えたときにこそ活気や賑わいが生まれ、結果としてまちおこしに結び付いていくようにも考えられる。

市民のそれぞれが、普段見過ごしがちな素晴らしい資源(施設や自然、景観、風土、人…)に価値を見出し、“プラスワン”の取組を進めていくことで、小矢部の魅力が再発見され、価値のある“オンリーワン”になっていくものと、私たちは信じている。そして、このような取組は、一過性のものではなく、粘り強く継続されることでさらに価値が生まれるということも付け加えて、まとめたい。



※ 写真はイメージです。